

# ケアマネの部屋

発行日：平成23年9月30日 (No.9)  
発行元：浜松市介護支援専門員連絡協議会

## 地域包括支援センターの活動報告（南区）



地域包括支援センター白脇  
地域包括支援センター芳川

地域包括支援センターが創設され、早いもので6年目を迎えました。各専門職が協力し、地域に暮らす高齢者の皆様を介護・福祉・健康・医療などさまざまな面から支えています。

南区には、地域包括支援センター白脇（白脇・新津・可美）と芳川（飯田・芳川・河輪・五島）の2箇所があります。担当地区の遠州浜海岸沿いには、市営団地や県営団地があり、周辺には昔からの農家も多いですが、新興住宅地も増えています。

### 南区地域包括支援センターの圏域情報

|           |          |
|-----------|----------|
| 人 口       | 106,238人 |
| 高 齢 者 人 口 | 22,957人  |
| ひとり暮らし高齢者 | 3,917人   |
| 高 齢 化 率   | 21.6%    |

活動内容は、相談対応を主にしていますが、緊急時など早めに相談・通報してもらえようサロンや老人会、民生委員協議会などに出席し、地域の皆様と顔の見える関係づくりを心がけています。さらに、高齢者の皆様が住みなれた地域で元気に暮らしていくために、わかりやすい出張介護予防講座や認知症サポーター養成講座（白脇）を開催しています。

相談の中には、精神疾患を患う方や経済的に困窮している方、ご本人だけでなく家族が問題を抱えた方も多くいて、他の専門機関・職種との連携が欠かせません。毎月2包括と行政（南区長寿）で業務連絡会を行い、活動報告や意見交換、今後の課題等について話し合っています。それに加え、南区支援連絡会（隔月）で、地区担当保健師、保健予防課、南区長寿、2包括で支援困難ケースの進捗状況を確認し、必要に応じてケースカンファレンスを行っています。

また、民生委員とケアマネジャーとの顔の見える関係づくりを目指して、平成20年から様々な取り組みを行っています。白脇担当地区では、お互いの日頃の活動や悩みを話し合う場を設け、虐待対応の学習会に取り組みました。芳川担当地区では、成年後見制度の学習と交流会を行いました。いずれも参加した皆さんから、「今後も続けて欲しい」と強い要望があり、今年度も計画しています。高齢者の皆様ができる限り住み慣れた地域で安心して暮らしていけるよう、今後も活動していきたいと思っております。

「訪問看護の立場から感じること」

訪問看護ステーション浅田所長 垣野内 恵子氏

大変なケアマネジャー業務、お疲れ様です。最近、ケアマネジャーさんと連携させていただきながら感じたことをお伝えできればと思います。

### 訪問看護導入の時期

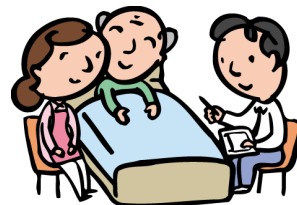
「家族の介護負担が大きく精神的に参っている。月末は、施設入所の話が決まっているが、それまでの間ケアに入ってほしい」という方がいらっしゃいました。創処置をしながらの入浴介助でしたが、訪問するうちにご本人からは「あんたらが、こうやって来てくれると、安心だしうちにもいられるかもしれないなあ」という言葉がありました。



険しかったご家族の表情も穏やかになっていきました。（入所が、決まっていたからかもしれませんが・・・）もう少し、早い時期に訪問に行けていたら、ご本人がいたかった自宅で過ごせたのかなと思った事例でした。ターミナル期や認知症の利用者様も、もう少し早い時期に訪問していれば支援できたのと思える事例もあります。

### 利用者・ご家族の意向と専門的なアセスメント

ケアマネジャーさんからの依頼で「ご家族の意向です。」「ご本人が、希望されているので、増やしていただけませんか?」と言われることがあります。意向に沿うことは、もちろん大切なことだと思います。そのプランが、適切なことがほとんどだと思います。ご連絡をいただいて、感じるのはケアマネジャーさんのアセスメントはどんなものなのかな?ということです。今起こっている現象は、何から来ているのか、どのように誰が何をすればこの現象は解決するのかということについて、ケアマネジャーさんのご意見を伺いたいと思います。ケアマネジャーさんのご意見を伺いながら、一緒に検討できればよりよい方向性が見えてくるかなと感じています。



連携をとりながら、利用者様のより良い生活を支援していきましょう。



## 研修報告（平成 23 年度浜松市介護支援専門員連絡協議会通常総会）

広報委員 関口 進

「平成 23 年度浜松市介護支援専門員連絡協議会通常総会」が 6 月 4 日に可美公園総合センターにて開催されました。6 月の時点の会員数 1098 名、出席者 229 名、委任出席 443 名で規程の過半数を超え総会が成立しました。



まず栗倉会長より「震災によって介護保険制度がおかしな方向に行くのではないかと危惧しています。おかしなことに対しては物申すケアマネになりましょう。」と挨拶がありました。次に浜松市社会福祉部介護保険課の宮地課長の挨拶で「認定調査の遅れたのは介護保険の認定申請者の急激な増加が主な原因。」との分析があり改善に努力しているとのことでした。

議事では平成 22 年度の事業報告と平成 23 年度事業計画について担当役員から報告および説明がありご承認いただきました。



全体研修では、「大震災！！ケアマネや行政の果たすべき役割とは？」をテーマにして医

療従事者の立場から：聖隷三方原病院 救急科 医長 矢野賢一氏、介護従事者の立場から：天竜厚生会子育て支援事業部係長 久野宗孝氏、浜松市の要援護者支援のあり方、災害時の取り組み：浜松市総務部危機管理課主幹 太田一彦氏 と被災地に行かれた方からの貴重な体験と提言、そして行政からの現在の浜松市の震災対策の現状について説明がなされました。その後、栗倉会長も参加し「ケアマネや行政の果たすべき役割について」パネルディスカッションを行いました。

### －編集後記－

介護・福祉の充実、地域連携の強化などを目的に発足した本会の活動を広く市民の皆様にも周知してもらうべく「ケアマネの部屋」広報誌を浜松市のWEBサイトに公開していただいております。ご意見やご感想がございましたら事務局にお寄せ下さい。（介護保険課 FAX 053-450-0084）

今後、ますます充実したものになりますよう、関係皆様のご理解とご協力をお願いします。

### 広報委員会

村松佐知子 関口 進 飛田ひさ子 佐口 明 鈴木澄男 袴田佳代子  
榊原和美 平出和代